

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金

事業報告 第8号 (2010年度)

★ パル・ピパル学校 第一回目の全国統一試験 (SLC) 結果

今年の春にバル・ピパル学校の生徒 39 名が、全国統一試験 (略して SLC) を受験しました。試験結果は、12 名が 1st レベル (60%以上)、20 名が 2nd レベル (45%以上)、1 名が 3rd レベル (32%以上) で、合計 33 名が合格しました。これは、合格率 84.6%を示しており、全国平均合格率 48.4% (受験人数は 456,022 人) よりかなり高い結果です。また、1st レベルの人数は周辺の村々の学校より上です。

この結果により、パル・ピパル学校のレベルが高いことが実証されました。不合格者のうち 5 名は一部の科目で再受験のチャンスがあるため、もし彼らも合格すれば村の合格率は 97.4%になります。残念ながら、残り 1 名の生徒は再受験できず、不合格になりました。

バル・ピパル学校の初めての SLC 受験でしたが、生徒も教師も非常に良く頑張りました。来年も良い結果を出せるために勉学に力を入れて欲しいと思います。

村に学校を建設・運営したことで多くの優秀な生徒が育ちました。ご支援下さった皆様、ありがとうございました。

・ SLC について

10 年生を終了後、SLC (School Leaving Certificate / 学校卒業資格) と呼ばれる全国統一試験を受験します。合格者は得点によって、優 (80%以上)、1st (60%以上)、2nd (45%以上)、3rd (32%以上) の 4 つにレベル分けされ、進路が決まります。理工学系に進学できる学生のほとんどは、1st レベル以上です。

SLC は、進学や就職に必要な最低限の学歴であるため、学生にとって非常に重要な通過点です。

SLC 取得後、さらに進学する者は、大学 (University) 付属の 2~3 年制キャンパス、または一部の高校に導入されている制度 (10 plus 2) の 2 年制学校で学びます。このいずれかを卒業した者が、日本でいう「大学 (University)」に進学する資格を取得したことになります。

(1) 学用品支援事業・・・就学生へ文具品の寄与

今年度は、年間に必要な文具品を就学生 340 名全員に寄与しました (表 1)。おかげ様で新たに 10 学年が始まり、48 名の生徒がこの学年で学んでいます。

<就学生 1 人に寄与する文具>

鉛筆、消しゴム、ノート各種、ボールペン及び換芯、万年筆及びインク

<対象者の条件>

- A. サッレ村在住の就学生、またはサッレ村内の学校に通学している他の村の就学生であること。
- B. 進級試験の合格者の場合、学校の出席率が月 80%以上 (塾は月 90%以上)、不合格者の場合は、出席率が月 90%以上 (塾は月 100%) であること。
- C. 毎年、各学年の開始時に奨学品希望の申請書を提出すること。

表1 文具品を寄与したバル・ピパル学校就学生

学年	幼稚園生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
生徒数	10	13	15	30	29	30	35	36	37	57	48	340

(2) 奨学資金支援事業…奨学生の決定及び文具品寄与

今年度は、7つの学校から優秀な奨学生 217 名が集まり、奨学金が寄与されました（表 2）。

昨年 5 月には、例年のようにサッレ村のバル・ピパル奨学財団が各学校に招待状を送り、奨学品の授与式が行われました。

村々から奨学生達、代表教師 1 人と父母がサッレ村に集まり、今

度も文具品が各自に寄与された後、踊りなどで祭りのように祝いました。

表2 優秀な奨学生

村名	学校名	学年	人数
サッレ	バル・ピパル学校	幼稚園～9	100
トドケ	バゲソーリ学校	1～3	12
ダダ	パンチャ・カンニャ学校	1～5	20
ラマスタン	ラマスタン学校	1～9	36
ヴォルレ	マナルピ学校	1～9	36
ボシ	シャンカ・デヴィ学校	1～10	1
バンカルカ	カリカ学校	1～3	12
合計			217

<対象者の条件>

- A. サッレ村とその近隣の村に通う就学生であること。
- B. 毎年 4 月に行われる進級試験の成績順上位 4 名であること（バル・ピパル学校は上位 10 名が対象）。
- C. 毎年 1 月と 9 月に行われる中間試験の成績順上位 10 名であること（バル・ピパル学校のみ対象）。
- D. 年末試験の奨学品受領後 1 ヶ月以内に、好きな小論文を提出すること。

表3 奨学文具設定金額（条件B用）

学年	1位	2位	3位	4位	合計
1	100	80	60	50	290
2	200	160	120	100	580
3	300	240	180	150	870
4	400	320	240	200	1,160
5	500	400	300	250	1,450
6	600	480	360	300	1,740
7	700	560	420	350	2,030
8	800	640	480	400	2,320
9	900	720	540	450	2,610
10	1,000	800	600	500	2,900
1Rs=約1.2円				年間	15,950

表4 奨学文具設定金額（条件C用）

学年	1位	2位	3位	4位	合計
1～9	25	20	15	10	70
1Rs=約1.2円				年間	840

寄与文具品の金額設定は表 3 及び表 4 の通りです。条件 C の上位 5～10 位の該当生徒の金額設定につきましては、現地の委員会と話し合った上で決定します。条件 C によって、できるだけ多くの生徒が勉学に励むように支援したいと考えています。

(3) 識字率向上支援事業…脱穀機導入の成果

村人達のためにサッレ村に脱穀機を導入した目的は、夜間クラスで学ぶ成人の出席率向上でした。現在では成人達の殆どが読み書きを覚えたため、夜間クラスは開講しておりません。脱穀機の利用で母親達の家事労働負担が軽減されたことにより、家事を手伝う児童達の勉強時間も増え、彼らの学校への出席率向上などに役立っています。

(4) 広報活動 ①…「フィリピンの友を援ける会」による教育ご支援

今年度も、「フィリピンの友を援ける会」に、バル・ピパル学校 1～5 学年の教師の給与、塾の運営費用、生徒の給食・制服・靴などの費用をご支援いただいております。また、寄付金によって学校に利用する目的で購入した土地に、脱穀機の施設、中学と高校の校舎や運動場などを建設することができました。

会からは、これまでに合計約 650 万円以上のご支援をいただき、バル・ピパル学校を 10 年間無事に運営することができました。「フィリピンの友を援ける会」の長いご支援に、本当に感謝しております。



準備された奨学品



奨学財団の代表者から奨学品を受け取る女子生徒



奨学品を受け取る男子生徒



奨学品を受け取る女子生徒



奨学品を受け取る女子生徒



音楽にあわせて踊る生徒達



バゲソーリ学校の奨学生達



カリカ学校の奨学生達



パンチャ・カンニヤ学校の奨学生達

広報活動 ②…「特定非営利活動法人ブッダ基金」による教育ご支援

ブッダ基金の事業内容の一つ「ネパール山村地域に住む人々への識字教育援助」として、引き続きサッレ村のバル・ピパル学校 6～10 学年(中高等部)の建設と教育支援をしていただいております。ご援助により 10 学年クラスを増設し、これまでの 3 名の教師に加えて男性教師 Dilli Prasad Paudel (英語担当) を新たに雇用、また昨年亡くなった数学教師 Rajendra Rijal の後任には、男性教師 Chhandu Narayan Shrestha が雇用されました。

現在学ぶ生徒数は、6 年生 35 名、7 年生 36 名、8 年生 37 名、9 年生 57 名、10 年生 48 名です。10 学年の増設によって、サッレ村や高校が無い近隣の村の生徒達は遠くのボシ村シャンカ・デヴィ学校へまで通学しなくてもよいので、負担が非常に減りました。ブッダ基金の皆様、いつもありがとうございます。

詳細な活動につきましては、ブッダ基金のホームページでご覧になれます。<http://www.buddha-f.com/>

広報活動 ③…「サロン・ド・アサミ (Salon de Asami)」による教育ご支援

「サロン・ド・アサミ」は、音楽や講演など様々な文化活動を行う交流の場です。「サロン・ド・アサミ」代表者の石井氏が募金箱を設置し、サロンをご利用される方々に寄付を募って下さっております。この募金によって、初等部 (1～5 学年) の女性教師 Kanchhi Maya Gurung の給与支援を行っています。

石井氏、サロンご利用の皆様のご協力に感謝しております。

広報活動 ④…カトマンズ郊外に土地を購入

今年 4 月、石井氏のご寄付でカトマンズ郊外の Dharmasthali 地区に約 100 m²の土地を現地のバル・ピパル奨学財団の名義で購入いたしました。これは、近い将来その土地にビルを建てて一部を住居用や店舗として人に貸し、その収益で現地の村人が寄付に頼らず自立して学校の管理・運営を行えるようになること

が目的です。同時に、ネパールと日本の文化交流につながる多目的な施設として活用できるような場所にしたいと考えております。

石井氏は昨年12月にサッレ村を訪れ、村の現状を見て下さり、帰国後に将来を見越した学校運営について話し合った結果、今回ご寄付をして下さることになりました。石井氏には、度重なるご好意とご援助にたいへん感謝しております。



購入した土地

広報活動 ⑤…東京大学 樋山恭助氏によるサッレ村の紹介

昨年3月に、東京大学の樋山先生と数名の研究者・学生の皆様がサッレ村を訪れ、これまでの村の様々な発展活動を東京大学・都市持続再生研究センター発行「SUR 6号」にて紹介して下さいました（別紙の冊子をご参照下さい）。樋山先生方にはご寄付もいただき、誠にありがとうございました。

広報活動 ⑥…五島育英会誌「ゆうわ」で奨学基金の紹介

今年6月に、監事のリジャルがバル・ピパル学校の夜間学校の成果について、五島育英会誌「ゆうわ」にて紹介させていただきました。このような機会をくださった編集委員会の皆様に感謝しております。詳細については右記の記事をご覧ください。（「ゆうわ 92号」五島育英会誌 2011年6月発行）

広報活動 ⑦…音楽教育支援

フルート奏者・故石井朝美氏のご遺族によるご支援で、バル・ピパル学校の生徒達が音楽に親しめるような活動

ができるように、2009年2月より10年間に亘って定期的にご寄付をいただいております。

この寄付金で Raj Kumar Prayal という男性を音楽教師として雇用し、これまではなかった音楽の授業を始めました。彼は、普段は仕立て屋の仕事に就き、祭りや祝い事には音楽を演奏する「ダマイ」というカーストの民族です。現在も継続して音楽教師として子供達を指導しています。

(5) 図書館設立支援事業…第8期 設立準備金の積立継続

今年度で、サッレ村に図書館を設立するための準備金の積立金が80万円になりました。日本国内で毎年10万円を10年間積立て、合計100万円を目指します。この準備金には図書館の建物の建設費、机やイスなどの設備費、書籍費が含まれます。

(6) 寄付金収入及び正会員数

おかげ様で今年度は140万円近いご寄付が集まりました。今年度の正会員は17名です。定期的に毎年ご寄付して下さい下さる方々、新たに初めてご寄付して下さい下さった方々、皆様に感謝しております。



手紙が書けるようになった母


8年前から日本人の友人達と「NPO 法人バル・ピパル奨学基金」を設立し、故郷のネパールで教育支援を行っている。私自身も日本に私費留学し、日本政府や民間の奨学金制度、留学生支援制度のおかげで勉学を続けることができたが、国の発展には教育が一番大事だと痛感したためだ。しかしネパールの貧しい村々では金銭的な問題もあり、まだまだ教育への関心は低い。

その活動の1つに「識字率向上支援」がある。山村部では成人でも読み書きできない人がおり、私の母もそうだったように、特に女性の割合が多い。親が読み書きできれば子供にも教えることができ、教育の重要さも理解してくれる。そこで子供達の学校へ、夜間に大人達も通学すれば良いと考えた。

最初は集会を開いたり、各家庭を訪れて学校に来るようお願いしたが、理解が得られなかったり、通学しても長続きしない人が多かった。私の母にも「目が悪い」、「この歳でいまだら」などと拒否された。自分の母親を説得できないのに、どうして他人を説得できるだろう…

しかし、通学できない理由の中に、「家の仕事で忙しい」というものがあった。特に脱穀作業は女性の仕事で重労働だ。そこで寄付金を利用して村に脱穀機を導入したところ、仕事に追われていた女性達が、おしゃれをして少しずつ学校に通い始め、学校で学んだことを子供達に教えるようになった。

帰省したある日、母が現当たらないうで家族に尋ねたところ、なんと「学校に行っている」という。皆が通学するようになり、それなら自分も思ったようだ。その母から手紙を買った時、私はとても嬉しかった。今ではこの活動の奨学制度によって、私の村とその周辺の村々の400名以上の生徒が勉学を続けている。（写真は、夜間学校に通う成人たち。活動の詳細は <http://barpeepal.com/> 参照ください。）



都市大 環境情報学部 講師 リジャル ホム・バハドウル

(7) その他のサッレ村の動き

** サッレ村で大歓迎会 **

昨年12月に石井氏と当基金会員の田中氏がネパールを訪れた際に、バル・ピパル学校に約1000人の学生・父母などが集まり、踊りと演奏で大歓迎しました。生徒達が歌・演奏・踊りを行い、ダマイも伝統音楽を演奏しました。

また、石井氏のご友人の方々のご好意で2頭の山羊の肉料理が村人達に振舞われ、大喜びでご馳走を食べました。



校長室にて教師の紹介



歓迎会での子供達の踊り



贈られた山羊の肉料理

～ ご支援のお願い ～

2010年の春から、バル・ピパル学校は10学年（高等部）が始まり、支援生徒数が340名になりました（表1参照）。

今回、SLGの合格率高かったことで、周辺の村々の親達も子供の教育の必要性を理解し、今後の教育についても期待が膨らんでいます。皆様のご支援には、誠に感謝しております。また、これからも支援事業を続けていくために、どうぞ引き続き皆様のご寄付とご協力を宜しくお願い致します。

<お振込先>

郵便振替口座：00930-4-265848

口座名称：特定非営利法人 バル・ピパル奨学基金

<ご連絡先>

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金

ホームページ・アドレス：<http://barpeepal.com>

第8期事業収支計算書

(2010年1月1日～12月31日)

(単位:円)

科目	決算額
I. 収入の部	
1. 入会金・会費収入	
正会員入会金収入	5,000
正会員会費収入	167,000
2. 寄付金収入	
寄付収入	1,227,533
3. その他収入	
利息収入	304
当期収入合計(A)	1,399,837
設立時資金有高	732,846
収入合計(B)	2,132,683
II. 支出の部	
1. 事業費	
①広報活動事業	20,000
②学用品支援事業	200,000
③奨学資金支援事業	80,000
④識字率向上支援事業	190,000
⑤書籍購入支援事業	50,000
⑥図書館設立支援事業	100,000
⑦学校運営支援事業	339,000
2. 管理費	
通信費	9,530
印刷費	0
消耗品費	9,336
雑費	5,030
振替手数料	6,250
交通費	0
3. 予備費	0
当期支出合計(C)	1,009,146
当期収支差額(B)-(C)	1,123,537
次期繰越収支差額	1,123,537